

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200551		
法人名	株式会社 ユタカ		
事業所名	花梨の郷		
所在地	千葉県花見川区千種町111-1		
自己評価作成日	令和3年12月3日	評価結果市町村受理日	令和4年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	令和4年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の中にあり、近隣住民と利用者のふれあいや当たり前の暮らしを大切にゆったりと生活しています。認知症の進行や重度化が目立ってきている為、訪問看護・訪問診療・訪問歯科等との連携を密にしています。また、生活の中に楽しみを感じて頂けるように様々な企画(サロン・レク・外食会等)や季節を感じるイベント等を開催しています。企画にはご家族も参加して頂いており、喜ばれています。生活の場面場面で利用者のできることを引き出しながら、日々の生活に取り組めるよう支援し、介護度に差はありますが、できる人はできない人を手助けしようとする気持ちが見受けられます。施設内だけで完結することなく、外出する機会を多く持ち社会とのつながりを開設当初から大切にしていますが、現在のコロナ禍では交流が制限されて思うように活動出来ていません。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域交流を大切にしており、趣味活動のボランティアや小学生、中学生の体験学習を受け入れてきた。また、自治会に加入して、清掃活動に参加し、地域住民とも交流がある。外出は年間計画を作成し、利用者の生活に変化を持たせるようにしている。利用者個別に役割を持ってもらい、食材の買い物などに行く人もいる。コロナ禍で行動が制限される中でも、混雑しない時間帯に散歩や買い物にも出かけている。また、利用者の家族が高齢でなかなかホームに面会に来るのが難しい場合は、散歩のついでに自宅に顔を出すなど、状況に応じてさまざまな工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り家族・職員も見える玄関やリビングに掲示している。管理者と職員は理念を共有し、実践につなげるよう努力している。	理念は玄関、リビング、事務所の見やすいところに掲示し、年度初めの職員会議で全員が共有し、日々の業務に繋げるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会主催の行事参加やクリーン活動以外にもボランティアの受け入れ・バザーの開催等、交流や散歩時のあいさつ等で顔見知りを増やすようにしていたが、コロナ禍で出来ていない。	自治会に加入し、地域の清掃活動に参加したり、民生委員と連携してバザーを主催するなどしている。ボランティアや小学生、中学生の体験学習の受け入れもおこなっている。ただし、現在はコロナ禍で見合わせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で自治会の方や民生委員さんと認知症の人の理解や支援の方法について話したり、受け入れるばかりでなく利用者自らが地域主催の企画に参加を勧められたり、地域の住民と交流が持っていたが、コロナ禍で出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話し合いでは第三者評価の結果・ホーム内の現状を報告したり、感染症についての話や非常災害時に花梨で出来る事・協力して頂きたい事等の意見交換をし、サービスの向上に活かしている。コロナ禍は文章でのやりとりになっている。	年4回、地域包括支援センター、自治会役員、民生委員、利用者、利用者家族、管理者の参加で開催している。評価結果の報告、感染症対策、事故報告、非常災害時の取り組み等について報告し、意見交換している。現在は感染予防のため、書面開催として意見交換している。	提出された意見を検討し、結果を議事録に落とし、利用者家族に送付してもよいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かと相談に乗って頂いたり、グループホーム協会を通じて実情や困難事例等を報告したり、事故発生時には速やかに報告をしている。また、行政から介護困難な人の受け入れ要請があれば受け入れるようにしている。	運営推進会議には、地域包括支援センターの出席があり、意見交換をしている。市の担当課には各種報告をしたり、市からは困難事例の相談を受けて対応することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内外研修により、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中はフロアの状況に応じて玄関の施錠はせずアラームで対応。職員が見守りや声かけ外に出かける等の配慮をしている。ただし、不在時の居室は他者の侵入防止の為施錠している。	「身体的拘束等の適正化のための指針」に基づき3か月に1回委員会を開催し、事例を基に内部研修を実施して、身体拘束をしないケアを実践している。外部研修にも参加し、内部研修時に伝達している。日常のケアの声掛けで不適切と思われる場合は、その場で意見交換している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内外の研修においても高齢者虐待防止関連法令について学ぶ機会を設け、日常の会議でも事業所内での虐待が見過ごされることの無いよう注意を払い防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族から要望のあった方に関しては支援させて頂いている。ホーム内研修でも取り上げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	制約の際はもちろん、それ以外でも心掛けている。改定事項がある場合には書類を郵送する以外にも家族会の場で直接説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の際に意見や要望を表せる機会を設け、家族アンケート等も実施している。契約の際にも国保連等第三者機関の相談窓口を案内し、玄関にも掲示している。	コロナ禍前は、運営推進会議、家族会、面会時などに意見を聞いていた。現在は電話で近況報告をして、意見をもらっている。利用者については、笑顔が見られるようなケアに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表や管理者は個別面談や会議の場を通じ、運営に関する意見や提案を話し合える関係を作り、反映させている。短時間パートの募集や介護が少しでも楽になるよう入浴リフトも実現している。	個別面談を年2回実施し、意見を聞いている。また、職員会議でも意見交換をしている。短時間パートの採用、リフト導入などは職員の意見を反映した事例である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況を把握し、個別面談時に話し合いの場を設け、個々の努力・実績・勤務態度や勤務状況が給与に反映できるよう努めている。また、賞与・会議手当・皆勤手当等もあり、やりがい・向上心を持って働けるよう努めている。妊娠しても安心して働ける環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、ホーム内研修開催や外部研修を受けることで、働きながらステップアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しているので、同業者との交流や学ぶ機会があり、質の向上に向けた取り組みをしていたが、コロナ禍で出来ない。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や相談・事前訪問の際に本人からも聞き取りを行う事によって、不安に感じている事や困っている事等を直接聞く機会を設け、少しでも不安が軽減できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談・事前訪問の際に本人がいない状況での聞き取りを行う事によって、不安な事や困っている事等を直接聞く機会を設け、今後の方向性や家族の要望等を話し合う事で少しでも不安が軽減できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入の際に、本人と家族からの話し合いを通じ、不安や要望を聞かせて頂く、何が改善されれば居心地よく暮らせるのかを見極め、他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共にする中で、趣味や特技を発揮できる場面を作り、利用者自身から教えて頂いたり、相談したりと支え合えるような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に利用者を支えるチームの一員として協力し合い、家族参加の行事を通じて楽しい時間を一緒に過ごしたり、利用者の心配事等も家族に相談し出来る事を取り入れて一緒に本人の為に支え合える関係を築く努力をしていたが、コロナ禍で直接対面は出来ていない。ラインを活用し、日々の様子を知って貰うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者は家族と一緒に散歩や買い物、お墓参りや外泊等自由に出掛けたり、知人友人や孫・曾孫等々誰もが気軽に訪ねやすいように関係継続の支援に努めていたが、コロナ禍で出来ていない。	コロナ禍前は、親族が面会に来たり、一緒にお墓参りに行く利用者もいた。また、高齢の夫が面会に来られないため、妻である利用者が散歩がてら自宅まで行って夫と会えるように支援していた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や企画を通じ、利用者同士が係わり合い、出来る事・出来ない事をお互いに支え合える関係作りができるよう支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新盆にはお花を贈ったり、独居の御家族の場合等には大きな行事等にお誘いしたりすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を共にする中で、会話や個別ケアを通じ、思いや希望・要望・意向等をくみ取るよう努めている。	利用者の思いや意向は、個別のケアの中で聞くことが多い。意思疎通が困難な利用者は、表情や仕草などから把握するようにしている。時には家族や在宅時のケアマネジャーから情報を得ることもある。利用者に関する情報は申し送りノートやタブレットで共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方・生活環境等の情報等、申し送りノートを活用し情報共有を図っている。また、家族や前ケアマネとも連絡を取り合い、情報収集・把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の心身状況に合わせた1日の過ごし方や有する能力の見極め等、日々の係わりの中で把握に努め対応している。また、勤務者は業務前に記録を読むことにより把握して仕事ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、本人からの言葉や家族・必要な関係者との話し合いや職員からの情報収集・意見等を参考に作成している。見直しは3ヶ月或いは必要に応じて行っている。	入居時に基本情報を聞き取り、職員と話し合い、アセスメント要約表に記載して介護計画に反映させている。作成後の計画は職員会議や回覧、口頭で職員に周知している。介護計画は3か月に一度モニタリングを実施し、利用者の状態に変化があれば見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ひとりひとりの日々の様子や会話を詳細に記録に残し、気づきや工夫等を申し送りノートに記載する事で、小さな情報でも共有・実践できている。介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や日常生活を通じての係わりの中で発見したニーズ等を共有化し、本人の意向や思いを実現できるよう柔軟に取り組んでいる。(自宅面会の支援等)		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が顔馴染みの関係作りや、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう積極的に自治会活動への参加や地域の中に出掛ける機会を設けていたが、コロナ禍で出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が選んだかかりつけ医の下で適切な医療が受けられるよう支援している。付き添いは原則、家族にお願いするか同行している。必要に応じて訪問歯科・訪問診療等受けられるよう支援している。	従来からのかかりつけ医に継続して通院している利用者も、訪問診療を受けている人がいる。また、訪問看護ステーションと連携しており、週2回看護師による日常の健康管理をおこなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師が週一回訪問した際、近状や気付きを報告し情報共有している。その事により、個々の利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や入院中の状況把握に努め、早期退院に向けて病院関係者や家族との情報交換・相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針について契約の段階で説明・同意を得ているが、利用者の状況に応じて家族との話し合いの場を設けている。事業所で出来る事・出来ない事を十分に説明しながら方針を共有している。また、必要に応じて主治医・訪問看護・家族・職員の関係者と連携を取り、利用者が安心して暮らせるようチームとしての支援に取り組んでいる。	重度化や看取りに関する指針を整備し、契約時に家族に説明し同意を得ている。看取りの時期が近づいた時点で医師から家族に説明をしてもらい、再度意向を確認をしている。希望があれば看取り介護計画を作成し、医療関係者や家族、職員で連携し取り組んでいる。また、看取り研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や初期対応に関してのホーム内研修を行なっている。どのスタッフでも緊急時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行う事により、昼夜問わず利用者が安全に避難できる方法を訓練している。また、避難の際には緊急連絡網により、近隣住民の協力が得られるようになっている。	年2回、夜間想定訓練を実施している。訓練後は課題を話し合い、次回に繋がるよう取り組んでいる。重度化が進んでおり、避難の方法を模索中である。近隣住民には、避難した利用者の見守りを依頼している。備蓄は一覧表にして定期的に見直している。また、利用者用の防災頭巾も準備している。	近年は、想定外の災害や新型コロナウイルスの蔓延などがあり、様々な災害を想定した訓練の実施やBCP(事業継続計画)の作成も期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格や誇り・プライバシーを損ねる言葉掛け(排泄や入浴に関する事や失敗を宣伝・指摘するようは発言等)や対応について、会議で話し合ったり、その都度個々に話しをしている。職員間でもお互いに配慮している。	トイレ誘導は周りに配慮し、ホーム独自で決めている合言葉などで声掛けするようにしている。また、利用者の呼称は「さんづけ」にするなど、言葉遣いに気を付けている。職員の不適切な言動には職員同士で注意し合える環境である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	少しでも自分で選択したり、決定できるような機会を多く設けている。また、外食会や外出企画の際には企画の段階から利用者に参加して頂いたり、日頃の会話の中から思いや希望をくみ取り、実現できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで生活して頂けるよう柔軟に支援している。起床就寝時間・入浴時間・日中の過ごし方等も本人の希望や体調を考慮し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容に来てもらい、希望者に利用して頂いている。また、「起床時には一緒に好みの服(色)を選んで頂けるよう支援したり、顔拭き・顔そり等も意識的に行ない身だしなみには配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作り昼食を週二回取り入れ、利用者と一緒に買い物に出掛て食材選びや献て決めをしている。また、日常生活の中でも、簡単な調理や味付け・盛り付け・片づけ等を一緒に行う事により、役割を見出し協力しながらもひとりひとりの力を発揮できるよう支援している。	食材業者の献立を利用しているが、週2回は利用者のリクエストに応じている。利用者は食材の買い出し、盛り付け、テーブル吹きなどに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食量や水分量が1日を通じて確保出来るよう記録を共有して対応している。また、その方の状況や能力・習慣に応じた対応も申し送りノートを活用しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きやうがい等、その方に応じて促しや介助を行っている。また、訪問歯科のより定期的な口腔ケアやその方にあった磨き方等のアドバイスを貰っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを排泄表により大まかに把握しているので、随時個々に合わせたさり気ない誘いや介助をしている。	日中は、できるだけトイレで排泄できるように誘導するなど支援している。夜間はポータブルトイレを使用するなど、一人ひとりの状況に合わせて、臨機応変に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中に身体を動かす機会を意識的に取り入れたり、野菜を多く取り入れた献立や食べやすい形態にする等の工夫をしたり、運動等により便秘の予防や改善に努めている。また、便秘時にはDrと相談し下剤調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望や必要に応じていつでも入浴出来るよう支援している。一般浴槽に入るのが困難になってしまった利用者に対しては入浴リフトを使用し、安全に入浴して頂けるように支援している。歌を流し、楽しんで貰う場合もある。	入浴は最低でも週2回、支援している。希望があれば週2回以上の入浴が可能である。利用者の重度化に伴い、一か所の浴室にリフトを設置した。また、季節に応じ菖蒲湯やゆず湯、希望により入浴剤を入れたり、音楽を流したりして、入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩や日常生活の中で身体を動かす機会を通じて、日中の活動量を増やし夜間ぐっすり眠って頂けるよう工夫している。また、なかなか寝付けない・眠れない方については睡眠状況を観察し、Drや家族に報告・相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や副作用・注意点・薬の目的等、また服薬時の介助方法や注意点等について申し送りノートで情報共有し、対応している。症状の変化等に関しては記録し、家族・Drに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買い物だけでなく利用者の楽しみやパン教室・生け花・絵手紙・季節行事等楽しんで頂いている様子。月一回の歌会も楽しみにしている利用者が多かったが、コロナ禍で制限されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を実現出来るよう努力している。近隣の散歩だけでなく、ドライブやピクニック・日用品の買物等にもお誘いし、戸外に出掛ける機会を多く支援している。また、季節行事以外にも外食会や買物・イチゴ狩り・日帰り遠足等、個々の希望を企画に反映させていたが、コロナ禍で制限されている。	天気の良い日は、車いす利用者も一緒に近隣の散歩に出かけている。コロナ禍以前は、ドライブやピクニック、買い物などにも出かけていた。また、季節ごとに外出行事もあった。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している利用者はいない。買物に行った際に選んで貰う事はある。買物は立替え対応で欲しい物や必要な物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中お見舞いの葉書を家族や友人宛てに作成し投函したり、それ以外でも手紙や電話のやりとりも自由に出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居心地良く過ごせるよう配慮している。季節感や生活館を意識した飾り付けを利用者を一緒に相談しながら作成している。自室や廊下に企画の写真を掲示し、思い出話をしたり家族や面会者にも見て頂けるようにした。	利用者の重度化に伴い、車いすの利用者が増えており、テーブルの配置を変えるなど、安全で居心地よく過ごせるように対応している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士で盛り付けや調理をしたり食事や談話、作業等をしたり出来るようテーブルを分けたりまとめたりして対応している。また、リビングのソファだけでなく廊下にもベンチや椅子を設置しているので、その時の気分に応じ、好きな場所で寛いで頂けるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や使いなれた物を持ちこんで頂いている。少しでも住み慣れた生活環境に近付け、安心して居心地よく暮らして頂けるよう配慮している。また、行事や企画の写真や家族との写真等飾っている。	利用者は、タンスやいすなど自宅から使い慣れた家具などを持ってきており、それぞれが落ち着いて過ごせるようにしている。家具の配置は、利用者の状況に合わせて、安全に配慮して決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には大きな文字や写真で表札があったり、トイレも見やすい表示にしている。廊下は夜間足元を照ら灯りをつけ安全対策をしている。夜間起きてくる利用者のベッド下にセンサーを設置したり、上掛けやベッド柵に鈴をつけてすぐ訪室出来るようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと